

水稻育苗箱用殺虫殺菌剤

スタウトダントツ[®] 箱粒剤08

病害虫の侵入を許さぬ強固な守り



は種前から移植当日まで
いつでも使用可能!!



いもち病



白葉枯病



イネミズヅウムシ



イネドロオイムシ



イネヒメハモグリバエ



*1/画像提供:こうち農業ネット スタウト、ダントツは住友化学株式会社の登録商標

スワットダントツ[®] 箱粒剤08

特長

- ① いもち病と水稻初期害虫に優れた効果
- ② は種前(床土混和)から移植時まで使用可能
- ③ 移植水稻、湛水直播水稻でも使用可能

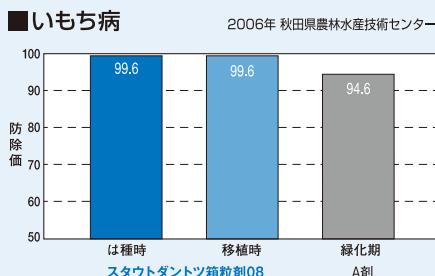
適用病害虫および使用方法

2021年11月現在の登録内容(太字は2021年10月27日適用拡大)

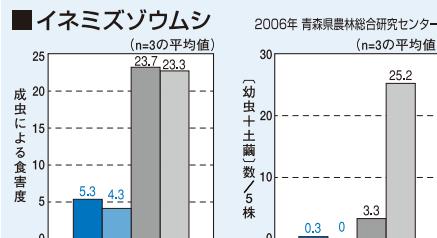
作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	
稻	いもち病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ	1kg/10a	移植時		側条施用	4回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
			は種時		は種同時施薬機を用いて土中施用する	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
稻(箱育苗)	いもち病、白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネドロオイムシ ウンカ類、ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5ℓ) 1箱当たり50g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	
					育苗箱の上から均一に散布する			
		育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5ℓ) 1箱当たり50g	は種時(覆土前) ~移植当日		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する			
					育苗箱の上から均一に散布する			
	イネクロカメミシ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5ℓ) 1箱当たり50g	移植当日		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する			
					育苗箱の上から均一に散布する			
	苗立枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5ℓ) 1箱当たり50g	は種前		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する			
					育苗箱の上から均一に散布する			
		育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5ℓ) 1箱当たり50g	は種時(覆土前)		育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する			
					育苗箱の上から均一に散布する			

※:高密度には種する場合は1kg/10a【育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5ℓ)1箱当たり50~100g】

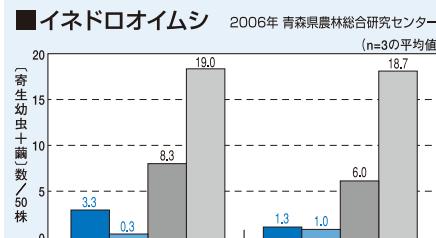
試験成績



品種:ナツミノリ は種日:4月11日 緑化期:4月19日
移植日:5月16日 発生状況:稲いもち多発生
調査日・方法:8月22日(移植98日後)に、計100株の止葉について
株毎の病斑数を調査し、その平均値から防除率を算出



■スワットダントツ箱粒剤08(は種時) ■スワットダントツ箱粒剤08(移植時) ■C剤(移種時) ■無処理
品種:ゆめあかり は種日:4月19日 移植日:5月23日 発生状況:中発生(放虫)
調査日・方法:[食害度] 6月22日(移植30日後)に、計75株(無処理は150株)
について成虫による食害程度を調査し、食害度を算出
[幼虫・土蟲数] 7月中旬に計15株(無処理は30株)について、
根部に寄生している幼虫数・土蟲数を調査



■スワットダントツ箱粒剤08(は種時) ■スワットダントツ箱粒剤08(移植時) ■C剤(移種時) ■無処理
品種:ゆめあかり は種日:4月19日 移植日:5月23日 発生状況:少発生
調査日・方法:7月4日(移植42日後)、11日(移植49日後)にそれぞれ計150株
(無処理は計300株)について、寄生幼虫数および土蟲数を調査

◆ 注意事項

<効果・薬害等の注意>

- 本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用してください。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないでください。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機にかけて移植してください。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壤約5ℓ)1箱当たり乾粉として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当たりの育苗箱箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当たりの薬量を50から100gまでの範囲で調整してください。
- 側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用してください。
- 育弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗等には薬害を生じるおそれがあるので注意してください。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出しないように注意してください。

● 使用前にはラベルをよく読んでください。● ラベルの記載以外には使用しないでください。● 小児の手の届く所には置かないでください。● 空袋・空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

03R11K21S92:ZS

2021年11月作成(全新企画社)

大地のめぐみ、まっすぐへ
SCA GROUP
 住友化学

〒103-6020 東京都中央区日本橋2丁目7番1号

お客様相談室 0570-058-669

農業支援サイト:農力 <https://www.i-nouryoku.com>